

2022-23年度RIテーマ
IMAGINE ROTARY
イマジン ローターリー



RI会長
ジェニファー・ジョーンズ

TAKEHARA ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN 竹原ロータリークラブ週報

会 長	板場 英行	会 計	土伏 英晴	直前会長	福本 博之
会長エレクト	宮本 和彦	副 会 計	野田 眞治	管理運営	久藤 孝仁
幹 事	木村 安伸	S A A	宇都宮勝博	会員組織	堀越 賢二
副 幹 事	中川 康子	副S A A	三好 静子	奉 仕	吉本きよ子

事務局／〒725-0021竹原市竹原町3591
TEL／0846-22-7570 FAX／0846-22-7651
E-mail／rc-take@estate.ocn.ne.jp
http://www.takehara-rc.com

例会日／毎週木曜日12:30~13:30
例会場／大広苑 TEL(0846)-22-2970

本日のプログラム 8月25日

次週のプログラム 9月1日

卓話 尾道東RC 勝島康次郎様
『口元四方山話』

プレ公式訪問
誕生祝・各記念日祝

【2022年8月18日 第2745回例会記録】

- 点 鐘
- ロータリーソング：それでこそロータリー
- 4つのテスト：板場英行会員
- 会員数：14名（免除者：0名）
- 出席者：12名 □欠席者：1名
- メイク：1名 □出席率：92.86%

幹 事 報 告

【幹事 木村 安伸】

- ・広島県防犯連合会賛助会員会費納入のお願い

会 長 の 時 間



【会長 板場英行】

会員の皆さんこんにちは。盆を過ぎましたが、なお厳しい酷暑の日々です。会員各位には、暑さとコロナ対策を適正に行い、ご清祥のことと思います。8月第2回目の「会長の時間」のテーマは国内外の社会動向に関する内容です。本日は、世界的天候不順、気象異常に関して述べます。

2022年、世界で起こった天候不順や気象異常は枚挙にいとまない実態ですが、いくつかの例を挙げますと、3月インド：熱波の襲来で50度を超す超異常気温の記録。4月南アフリカ：豪雨による土砂崩れと洪水で人身、建物の甚大な被害発生。5月ブラジル：大洪水と地すべり、インド：アッ

サム地方での大洪水による多数の避難者。6月日本：147年ぶりの猛暑、東京は猛暑日9日連続。7月オーストラリア：シドニー大洪水5万人が緊急避難。8月：イギリステムズ川、ドイツライン川の干ばつ報道などです。

「記録的」「数十年に一度」「いままで経験したことのない」というフレーズが度々聞かれます。この理由背景について、先日もワイドショーで特集報道されていましたが、地球温暖化に加え、海水温度の上昇が起因していることは専門家の統一見解です。100年間で海水温度が0.5度上昇し、根本的な対策を講じないと今後も上昇する危険性が高く、その結果、予想される気象異常として、①夏の暑さと冬の寒さが激しさを増す（酷暑、極寒）、②遠く離れた地域で異例の異常気象を引き起こすテレコネクション「遠隔影響」現象（夏に雪が降る、少雨地域でのゲリラ集中豪雨、多雨地方での雨が降らない干ばつ）が起き始める例が報告されています。

16世紀のフランスの医師、占星術師、詩人であるノストロダムスが著書の中で、1990年代後半に「恐怖の大王」が降臨し「世界の終末」を予言。世界中を恐怖に陥れた「ノストロダムスの大予言」が23年の時を経て再注目されています。ノストロダムスは西暦3797年までの予言を提言したとされ、ドナルド・トランプのアメリカ大統領当選、2019年のノートルダム大聖堂の火災、そして、新型コロナウイルスの世界的蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻、トンガ大噴火を予言していたといわれる。その中で彼は、「闇の3日間」というフレーズで、“完全な闇の中で3日間生きられるように準備せよ。その日が訪れるときは近い。その3日間で多くの人々は食べることも飲むこともできず

死んでしまうだろう。闇が終わり光が戻っても、多くの人はいそれを目にすることもかなわない。”と述べている。その前兆となる現象（関連する4つの危機）が、いま世界中で起こっています。

①第3次世界大戦の勃発：ロシアによるウクライナ危機、米中の対立による全面核戦争の危機。

②小惑星シャワーが襲来：ふたご座流星群がピークを迎え、その一部が隕石として地球を襲う。

③ノアの大洪水が再び起こる：世界中での異常気象による大規模水害発生。核戦争、巨大地震、噴火による大きな地殻変動が起こり、異次元の気象変動が誘発される。

④米ドル市場の崩壊：新型コロナの影響で倒産する企業が続出し、投資家が米ドルを金、銀、仮想通貨に替える動きが活発化する。この予言、前回同様の安寧結末を願いたい。

環境省のHPに記載されている2100年未来の天気予報を見つけました。このまま温暖化対策が進まずに人口増加と経済成長を続けた結果、2100年の夏と冬にみられるある日の天気予報です。

<2100年2月3日>

- ・東京都、京都の最高気温は25度を超える夏日。マラソン中に熱中症で搬送される人続出。
- ・大豆の収穫量が激減。この日は節分だが、豆腐、納豆、大豆はもはや高級食材で、豆まきなど考えられない。
- ・人工造雪機を使って作った雪も溶けてしまい、閉鎖するスキー場が続出。

<2100年8月3日>

- ・日本一を競う暑さで有名な埼玉県熊谷市の最高気温は44, 9度、今夏22日目の40度超えの激暑日（注：激暑という用語）です。
- ・この日、札幌を含むほぼ全国で40度超え。熱中症などの熱ストレスでの死亡者数は、1万人を上回りました。
- ・気象災害により、稲作や農作物の収穫量も年々減少。品質にも影響が出て、食料難到来。

「2100年未来の天気予報」を現実に行ないたいために、未来を選ぶことのできる今この瞬間に私たちができることを実行する重要性を痛感します。特に、海に囲まれ海面温度上昇、偏西風サイクルの影響で異常気象が頻発しやすい日本です。地球温暖化、海水温度上昇に向け現時点で実現可能な対策に目を向けるとともに、台風、集中豪雨、ゲリラ豪雨といった水害や天災が起きたときの自己行動のあり方を常に念頭に置く意識が要求される。